

ねりまの文化財

文化財に親しもう!

東京文化財ウィーク2008

今年で11年目を迎える「東京文化財ウィーク」。毎年11月1日から7日までの1週間は「文化財保護強調週間」です。この期間中は全国で文化財の保護と活用について考える行事が行われています。東京都では強調週間の前後を「東京文化財ウィーク」として、都内全域で文化財を一斉に公開するとともに、関連する企画事業をあわせて実施します。

◇公開事業

11月1日(土)～9日(日)

◇企画事業

10月1日(水)～11月30日(日)

※詳細はガイド冊子「東京文化財ウィーク」をご覧ください。

練馬区では企画事業として、

○文化財講座

「考古学からみた中世の城跡」

○石神井城跡巡りと発掘パネル展
○尾崎遺跡出土品展示・解説会
などを実施します。

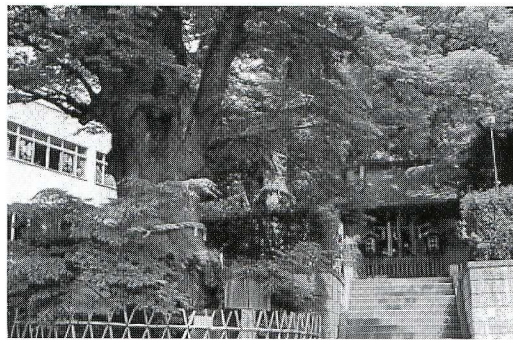


昨年の「石神井城跡巡りと発掘パネル展」で真剣に見入る子供たち

公開事業としては、2ページで紹介する区内の国および都指定の文化財も公開されます。

ぜひこの機会に練馬区の身近な文化財や歴史に触れてみてください。

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
Tel 3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1



◇国指定天然記念物◇

練馬白山神社の大ケヤキ

※ガイド冊子「東京文化財ウィーク」

東京文化財ウィーク全体の事業内容を詳しく記したガイド冊子「東京文化財ウィーク」は、9月下旬に、練馬区教育委員会文化財係や郷土資料室(石神井図書館地階・区立図書館などで配布する予定です。また同内容が東京都教育委員会のホームページにも掲載されます。練馬区以外の事業にも参加できますので、こちらもご覧ください。

文化財講座

考古学からみた

中世の城跡

中世城跡の構造や出土遺物の解説を中心として、考古学の視点から石神井城跡・練馬城跡を考えます。

◆日時 10月29日(水)午後2～5時

◆定員 一〇〇名(無料)

◆場所 練馬区役所

アトリウム地階多目的会議室

◆演題「関東の中世城郭」(予定)

埼玉県教育委員会 浅野晴樹

◆演題「石神井城跡と練馬城跡」

練馬区郷土資料調査員

都築恵美子

〈申し込み方法〉

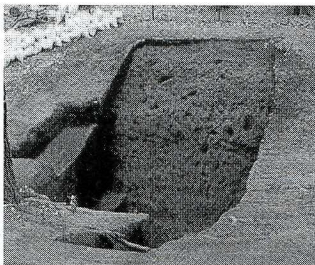
電話受付(先着順) 練馬区教育委員会

生涯学習部生涯学習課文化財係

◆一人で2名まで申し込みできます。

○受付開始 10月14日(火)午前9時

○電話03(5984)2442(平日)



石神井城跡の堀

石神井城跡巡りと 発掘パネル展

①石神井城跡(中世豊島氏の城郭)とその周辺の解説を聞きながら歩きます。
②城跡の主郭跡での発掘パネル展です。
【日時と内容】

①石神井城跡巡り 11月3日(月・祝)

a 愛宕山墨コース(所要約1時間)

午前1回、午後2回の計3回

b 文化財巡りコース(所要約30分)

午前2回、午後2回の計4回

※小雨決行、詳細は区報10月11日号をご覧ください。

②城跡発掘パネル展

11月1～9日(午前9時30分～午後4時30分)、普段は入ることのできないフェンス内(主郭跡)において石神井城跡を発掘調査した成果をパネルで展示します。

◆11月3日(月・祝) 午前10時30分～午後3時

主郭跡において平成10年度以降の発掘調査で出土した遺物や、調査の歴史などの展示パネルをまじえながら随時解説します。※雨天中止

【場所】都立石神井公園内石神井城跡

【交通】石神井公園駅(西武池袋線)

南口下車徒歩20分

【申込み】当日現地(無料)

【問合せ】練馬区教育委員会文化財係

電話03(5984)2442

尾崎遺跡出土品の公開

◆尾崎遺跡 (都指定史跡)

春日小学校建設にあたって、昭和54・55年に発掘調査された旧石器時代から近世までの複合遺跡です。

旧石器時代でも古い時期の石器である局部磨製石斧、縄文時代早期の土器、中・近世の陶磁器などの出土品がご覧になれます。

【場所】春日町5-12-1

春日小学校内郷土資料室

【交通】練馬春日町駅(都営地下鉄)

大江戸線 下車徒歩8分

【日時】11月1日(土) 2日(日)

3日(月・祝) 8日(土) 9日(日)

午前10時～午後4時

※校内に立入る際には、必ず学校受付にお申し出ください。

◆出土品の解説会

11月9日(日)

午前10時30分

～午後2時

◎学芸員が展示品を解説します。

※出土品は区指定文化財です。



区内にある国指定・都指定文化財

尾崎遺跡のほか、公開している区内の国指定・都指定文化財は左記のとおりです。

☆練馬白山神社の大ケヤキ

(国指定天然記念物)

白山神社のケヤキは2本あり、いずれも樹齢約900年と推定される、幹周りが7mを超える全国でも有数の巨木です。源義家が永保3年(一〇八三)、後三年合戦で奥羽(東北地方)に向かう際に、戦勝を祈願して苗を奉納したと伝えられています。

【所在地】練馬4-2 白山神社境内

【交通】豊島園駅(西武豊島線・都営地下鉄大江戸線) 下車徒歩5分

☆小野蘭山墓及び墓誌

(都指定有形文化財)

小野蘭山(一七二九～一八一〇)は江戸中期に活躍した本草学(博物学)者で、その講義をまとめた「本草綱目啓蒙」48巻は、国内最大の本草学の文献といわれています。大正12年(一九二三)の関東大震災の罹災により浅草から現在地に移転しました。

【所在地】練馬4-27 迎接院墓地内(十一ヶ寺墓地内)

【交通】豊島園駅(西武豊島線)

地下鉄大江戸線 下車徒歩5分

【公開時間】午前9時～午後4時30分

☆石神井城跡及び三宝寺池

(都指定旧跡)

三宝寺池は、武蔵野三大湧水池の一つで、石神井川の水源の一つになっています。三宝寺池南側の台地には石神井城跡があります。南側を石神井川に挟まれた要害の地でした。石神井城は、中世この地域を支配していた豊島氏の拠点でしたが、文明9年(一四七七)扇谷上杉氏に仕えた江戸城主太田道灌に攻められ落城しました。

【所在地】石神井台一丁目・二丁目他 都立石神井公園内

【交通】石神井公園駅(西武池袋線)

南口下車徒歩20分

【公開時間】午前9時30分

～午後4時30分

☆三宝寺池沼沢植物群落

(国指定天然記念物)

三宝寺池中央にある中の島(浮島)周辺を範囲として昭和10年に指定されました。その後都市化の進む中、昭和60年代初めには池の湧水がほとんど枯れるなどして何種かの水生植物は消滅し、生き残ったコウホネ、ミツガシワ、ハンゲショウ、カキツバタなども衰退しましたが、現在は順調に回復し、貴重な植物相をみせています。

【所在地などは、右記に同じ】

文化財を次世代に伝える

文化財保護推進員の紹介

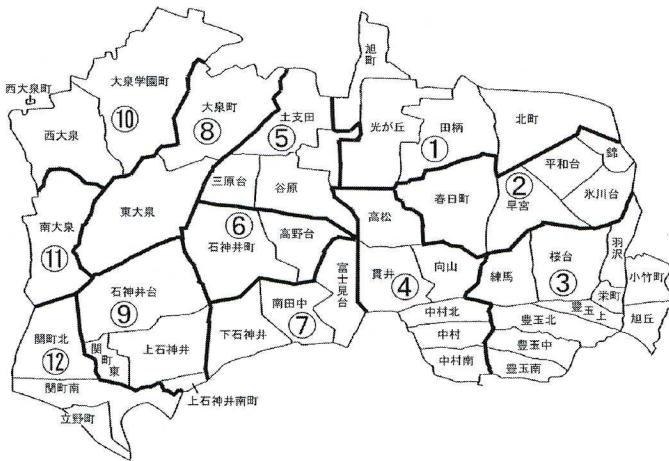
練馬区文化財保護推進員制度は、練馬区文化財保護条例に基づき昭和63年に設置されました。任期は2年で、平成20年4月1日付で第11期の文化財保護推進員12名を委嘱しました。11名が再任され、南大泉地域を担当されていた荒井道子さんの後任に松下真理さんが就任されました。

練馬区は、現在70万人をこえる人口の増加を見るようになってきました。それにもなう都市化によって、区内の様子も徐々に変貌を遂げてきました。かつて武蔵野の面影をみせていた自然もその姿をかえており、私たちに身近であった雑木林や田畑、路傍の石仏、庚申塔なども姿を消しつつあります。

そのような状況のなかで推進員の方々は、下図のとおり12に分けた区内の各地域を担当し、文化財保護のため、巡回・調査して状況を確認、聞きとりするなど地道な活動を続けています。また、教育委員会が実施するさまざまな文化財関係事業にも協力し、文化財保護の重要性を区民にご理解いただく役割も担っています。

そして、これらの活動の内容や結果

は、年に3回開催される推進員連絡会で報告していただいています。私たちの身近な文化財を守り、次世代へと伝えていくうえで大変重要な役割を担っている文化財保護推進員の方々の活動にご理解とご協力をお願い致します。



| | | | | | |
|---|---|---|---|--|---|
|  ①田澤 健男 |  ②飯田 静江 |  ③鈴木 曹元 |  ④佐藤 光治 |  ⑤鷺田 芳夫 |  ⑥須賀 頼子 |
|  ⑦蛭川 葉子 |  ⑧徳川 達子 |  ⑨長坂 淳子 |  ⑩奥野 雅司 |  ⑪松下 真理 |  ⑫鈴木 義範 |

練馬区伝統工芸展

〜練馬に活きる 匠の技〜

江戸時代から伝わる伝統に、緻密で大胆な匠の技が光ります。ひとつひとつの作品に心意気が込められています。この機会に、練馬の伝統工芸の「心」と「技」に触れてみませんか。

日時 10月24日(金)〜26日(日)

午前10時〜午後5時

会場 石神井公園区民交流センター

(ピアレスA棟2階・3階)

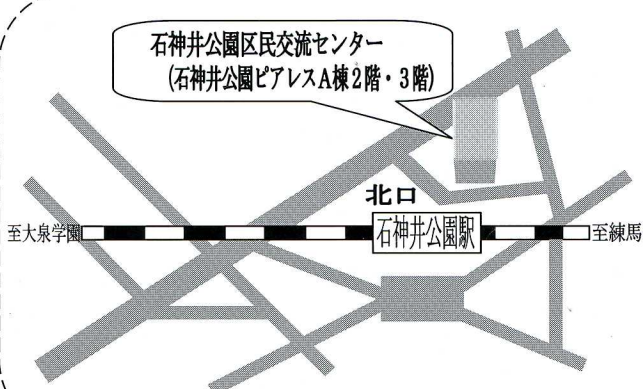
地図参照

内容 展示・実演・体験コーナー

(予定)

主催 練馬区伝統工芸会

後援 練馬区・練馬区教育委員会



区指定文化財の 下練馬の大山道道標 が戻りました

平成8年7月、環状八号線の工事により、区指定文化財「下練馬の大山道道標」他(北町1丁目)が撤去されることになったため、北町地域の皆さんが道標を元の位置に戻し、残して欲しいという要望を出しました。

その後、道標は一時的に北町児童遊園に移転していましたが、今年6月に元の位置の近くに戻りました。

現在、旧川越街道を通行する人達からも良く見えるように位置を変えて、

自動車の通行にも支障が無いよう、見通しを良くしています。

《下練馬の大山道道標》

旧川越街道とふじ大山道との分岐点に、道しるべとして宝暦3年(一七五三)、下練馬村講中によって建てられた高さ約1.5mの石造物です。

大山道は、石神井、保谷、田無、府中を経て神奈川県の大山へ通じていました。現在の富士街道(環八通りを含む)がこれにあたります。

平成5年度 区指定文化財

《不動明王像》

大山道道標上部の不動明王像は、道標建立時のものではなく、後世に制作されたとみられます。

《東高野山道標》(写真左)

高野台3丁目の長命寺(東国の高野山といわれる)への道しるべです。



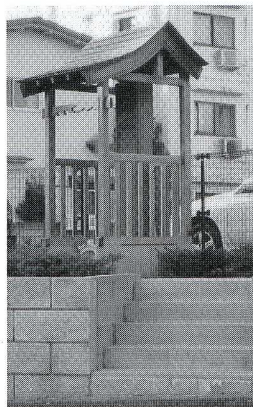
下練馬の大山道道標他

移転した馬頭観音

馬頭観音は数多くある観音のひとつで、馬にちなんで、多くは牛馬の息災や行路の安全を祈願しているものです。区内には130基余りの石造の馬頭観音塔があります。それぞれの場所が、

往来盛んな交通の要路であったこととうかがわれます。なかには区画整理や工事等にもない、移転を余儀なくされる馬頭観音もありますが、現在でも地元の方々に大切にされています。

《三原台の馬頭観音》



三原台2丁目18番の馬頭観音は、土地区画整理により130m程東側の閑越道側道沿い(2丁目6番)に移転しました。寛政10年(一七九八)建立です。

《平和台の馬頭観音》

平和台4丁目の馬頭観音は、もとは富士街道丸久保の十字路(現在の東京メトロ有楽町線平和台駅の交差点付近)

(近)にあったものですが、道路の拡幅工事により数回移転し、レストランの角(4丁目26番)へ移転しました。

またこの馬頭観音塔には像の彫刻はなく、文字だけが刻まれています。建立は江戸時代中頃と推定されます。道しるべを兼ねており、行先各所と里程が刻まれています。



《下石神井の馬頭観音》

下石神井4丁目28番の千川通り沿いにある石造の馬頭観音塔も文字だけが刻まれています。

文政9年(一八二六)に建立された道しるべを兼ねているのですが、この馬頭観音も道路の拡幅工事で数十メートル移動しています。

戦前戦後を知る地元の石塚さんは、千川上水の桜並木と牛馬が行きかっていた頃の様々な情景が、馬頭観音とともに思い出されると語っていました。

